

## 会社紹介

 **R&Next Design Inc.**

アール・アンド・ネクストデザイン株式会社

## 企業理念

「企業活動の活性化を図り  
ワクワクが溢れる社会の実現に貢献する」

## 活動方針

ものづくりの知見に基づき、社会活動を「目的の繋がりとして進むべき方向を与える役割を担う静的な舞台」と舞台の上で「出現と消滅を繰り返す動的な活動」の組み合わせにより捉える独自の考え方を提供することで、社会さらには企業内における個々の活動を同じ舞台上に位置付け、繋がりによって意味を与え人の叡智と技術の出会いを生む環境の活性化に貢献することで、人々のワクワクが溢れる社会の実現に寄与します。

## 5R1N

Reset, Rethink, Renovation, Re-engineering, Revolution and Next

一所懸命であるほど周りが見えなくなります。早く次に進まねばならないからと疎かになり、折角ここまでやったのだからと後戻りも打ち切ることもできなくなります。壮大なビジョンは他人事としか思えず、目の前の問題解決に支配されるのが実行の世界です。日々の取り組みは大事なことで、時には閃きがあり、素敵なイノベーションの種が生まれることもあります。定められたルールに囲まれた世界で芽吹かせることは難しいものです。

個々の頑張りを成果に結びつけるには、イノベーションの種を芽吹かせるには、いずれもそれらに適した土壌が必要で、やりたいこと・目的の繋がりとして描かれる舞台は Reset に始まる5つの“R”で Next を目指し、Next を次の Reset の起点として耕し続けねばならない土壌に相当します。終わりのない物語の「序・起承転結・末」を担うものであり、社会・企業が持続的成長を目指すために必要となる取り組みの骨格となります。

## 弊社のロゴ

ものづくりを通して日本が培ってきた感性を大きな丸（未来を生み出す土壌）と小さな丸（それぞれの世界で育まれるもの）の組み合わせで表しています。

日の丸をモチーフに、その伝承を大事にしたいと考える想いを込めています。



## 企業情報

アール・アンド・ネクストデザイン株式会社

〒530-0004

大阪市北区堂島浜 1-4-4 アクア堂島フロンターナ 3F

設立日 : 2019年10月 7日

資本金 : 300万円

代表者 : 代表取締役 CEO 河田 薫

取引銀行 : 三井住友銀行 梅田支店  
りそな銀行 堂島支店

連絡先 : HP <https://www.r-nextdesign.com/>  
Mail [contact-rnd@r-nextdesign.com](mailto:contact-rnd@r-nextdesign.com)



<https://www.amazon.co.jp/gp/product/4802098766>

## 事業内容

「事業変革、プロセス改善を目指されるお客様のプロジェクト・ファシリテーション および 遂行のご支援」

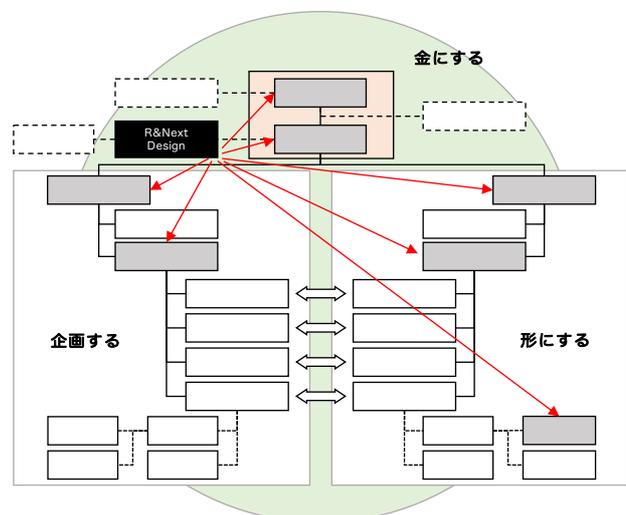
- 企画する（仮説の構築）
  - ・ ビジョンの噛み砕きと目的（やりたいこと）の繋がり形成
    - “全体のやりたいこと” から “個々のやりたいこと” への細分化
  - ・ 必要な取り組み・機能の静的な繋がり形成
    - “やりたいこと” から “やるべきこと” への具体化
- 形にする（仮説の実装・仮説の実行）
  - ・ 機能を実現するための チーム、設備、ルールなどの構築
    - “やるべきこと” から “できること” への具体化
  - ・ 指示の正しさ、伝達の正しさ、実行の正しさに基づく運用管理
    - “できること” の実行により “できたこと” の実体化
- 金にする（仮説の検証）
  - ・ 活動成果の認許による予算の獲得
  - ・ 未達成果、品質損失などを補填するマイナス予算の獲得
    - “やるべきこと” と “できたこと” の差分評価と訴求

## プロジェクト種別

- > スマートファクトリー化プロジェクト
- > ビジネスイノベーションプロジェクト
- > 新事業開発プロジェクト
- > 企業人育成プロジェクト、研修

## 主要顧客種別

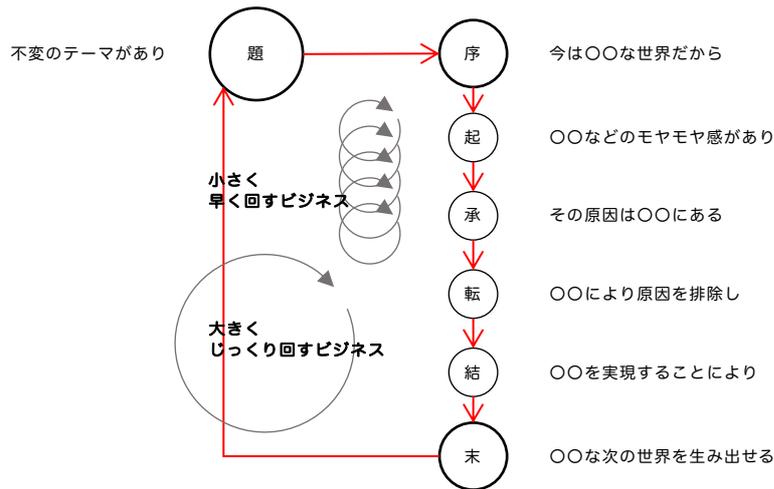
- > 製造業メーカー
- > 機器ベンダー
- > ITベンダー
- > コンサルティング会社 等



## ビジネスの寿命と持続性

企業活動は、企業理念に代表される不変のテーマの下に、人々や自分の物足りなさを解消しようとする意志の繋がりとして描かれるループの上に、必然性を持って「現れたり、消えたりする動き」と捉えることができます。

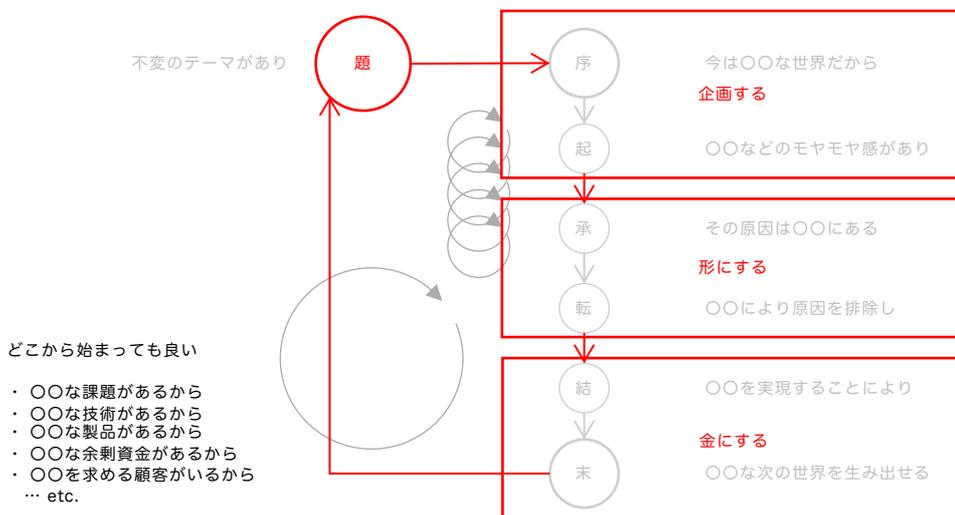
企業の持続的成長とは、ループを回し続けることに相当し、小さく早く、或いは、大きくじっくりなど寿命の異なるビジネス・ループの集合体として形成されますが、全てのビジネスは、不変のテーマに結実するものでなければなりません。



## 企業活動の三要素

ループは、企業活動の三要素「企画する」「形にする」「金にする」で構成されますので、相互の関係は維持されねばなりません。閉じたループですので、始まりも 終わりもなく、どこが起点でも構わないのがビジネスの本来の姿です。

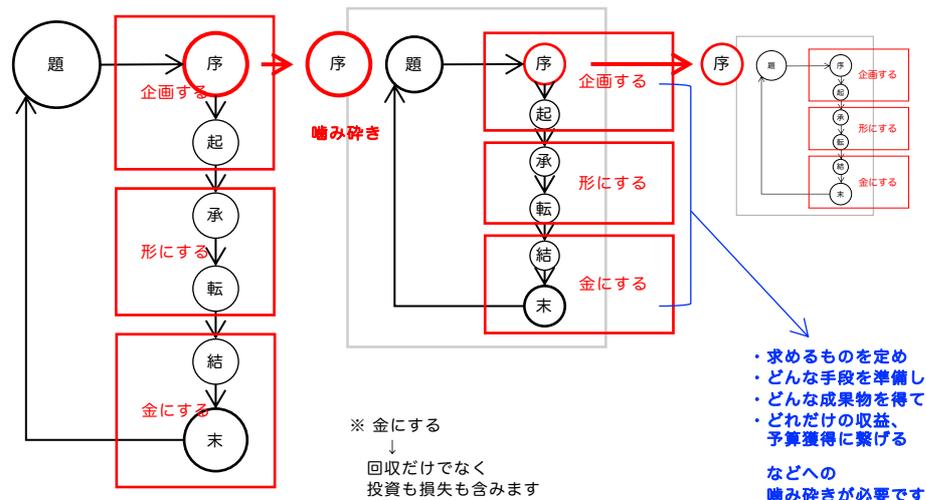
弊社のプロジェクト・ファシリテーションでは、お客様の既存の取り組みを否定することはありません。そこには必ず理由がある筈ですので、足りないものやズレと言った観点からお話を伺うことを入り口としています。



## 企業活動の噛み砕き

個々の過程・ステップもまた、企画する・形にする・金にするの三要素に噛み砕かれます。噛み砕きが不十分な場合、必然性の繋がりが失われることで他のステップで不整合を生じますが、その影響がどのステップで顕在化するかは不定です。

多くの場合「何故そのようなことをしたのか?」「誰がそんなことを言ったのか?」などの言葉をキッカケに表面化しますが、噛み砕きの経緯が管理されていないと、多くの無駄な時間を浪費するだけでなく、教訓として残すことが難しくなります。



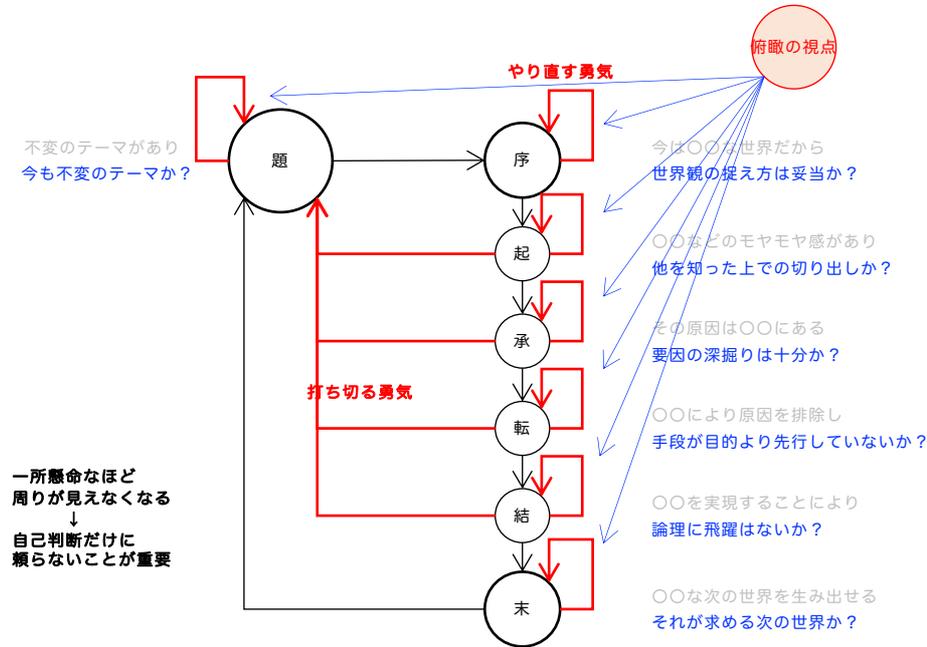
誤解されがちですので補足しますが、金にするとは、製品の販売などの行為だけを指すわけではなく「企画案で予算を獲得する」や「予算超過や損失などを補填するマイナス予算を獲得する」など、全ての企業活動を最終的にお金に換算することを意味します。

これは、材料や設備・人といった“バラツキを持つ生き物”を相手とし、まるっきり同じことが繰り返されることがない「ものづくり世界の考え方」に倣ったものです。

弊社のプロジェクト・ファシリテーションにおいても“やるべきこと”を“できること”へと現実解に具体化する過程を捉えた上で、“やるべきこと”と“できたこと”の差分の把握を基本とする考え方を踏襲します。

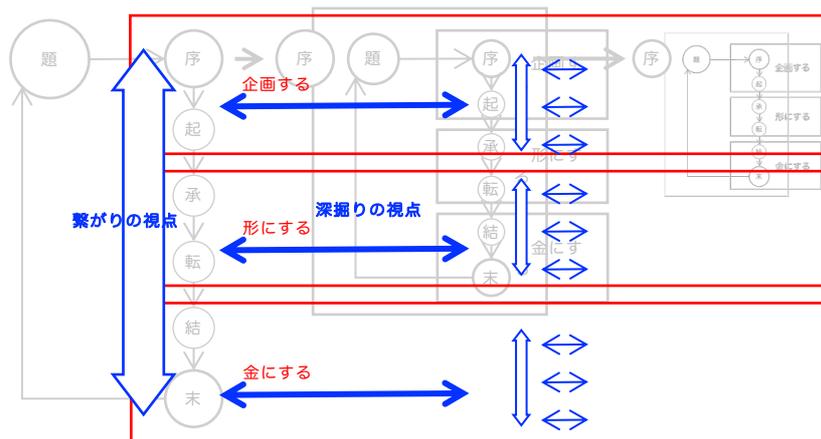
## 移行における視座

俯瞰の視点により、敢えて、否定側の立場からの問い掛けを行い、思考の偏り、思い込みの排除・是正を図ります。これは、第三者的に見極め「やり直す勇気」「打ち切る勇気」を醸成することに相当します。



## 実行における視座

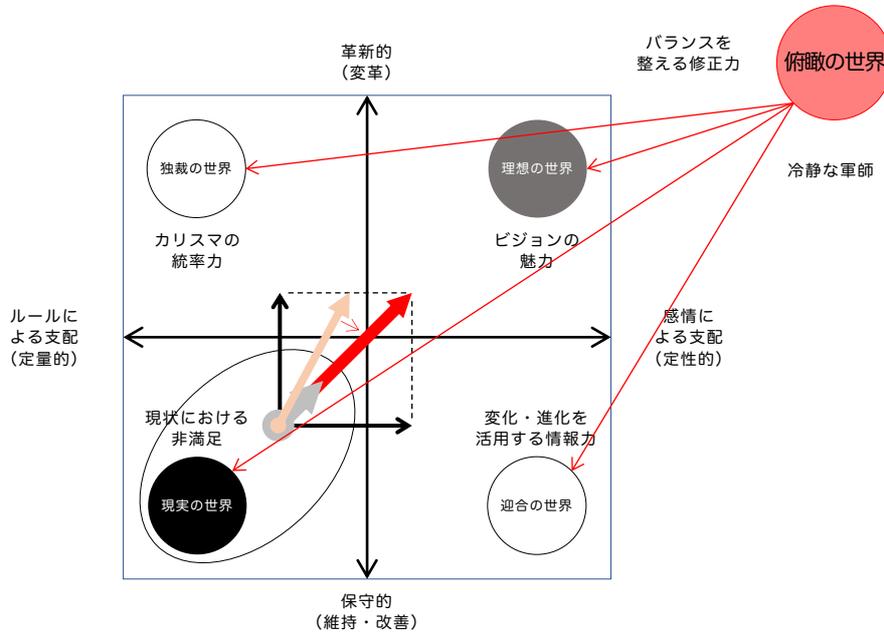
事業体として持つべき「繋がり」の視点と、推進者として活動を具体化する「深掘り」の視点を併せ持つことにより、活動を具体化する過程における繋がり」の整合性を維持します。



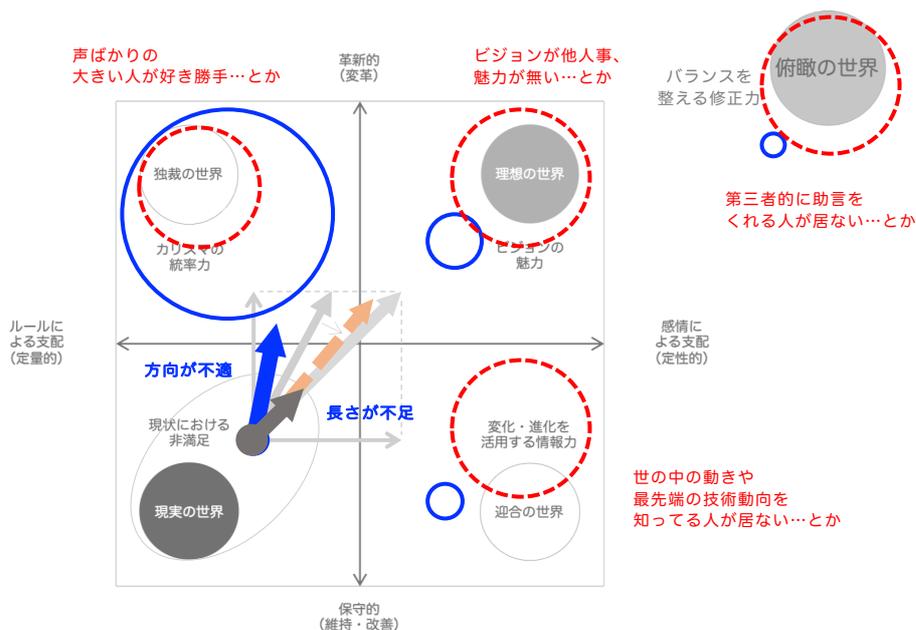
弊社は、ビジネス・ストーリーのアウトラインを捉え、企業活動の三要素と照らし合わせながら進めるここまでの会話を、プロジェクトの背景にある「大きな流れ」や「制約条件」に繋がるヒントを得るための重要な取り組みと位置付けています。

## 求心力と推進力のパワーバランス

企業活動に変革をもたらすためには「力」が必要となります。ビジョンに誰もが共感できるほどの魅力があれば圧倒的な求心力となりますが、多くの場合それだけでは足りず、カリスマ的な強いリーダーの統率力と、社会変化や最新技術に長けた情報力が加わり、その力の重ね合わせにより推進力が生み出されます。これに外部からバランスを整える修正力が必要に応じて作用し、企業活動が進む方向は決定づけられます。



このパワーバランスもまた大事な視点で、どんなに良い取り組みを描いたとしても、誤った方向に導かれたり、一所懸命な人の集まりで周りが見えなくなっている状況を修正する力が働かなかったりするといずれの場合も良くない結果に辿り着きます。



個人攻撃ではなく、パワーバランスの観点から、必要とする機能の適正化を図る議論が育まれる環境を作ることも弊社の役割の一つと考えています。

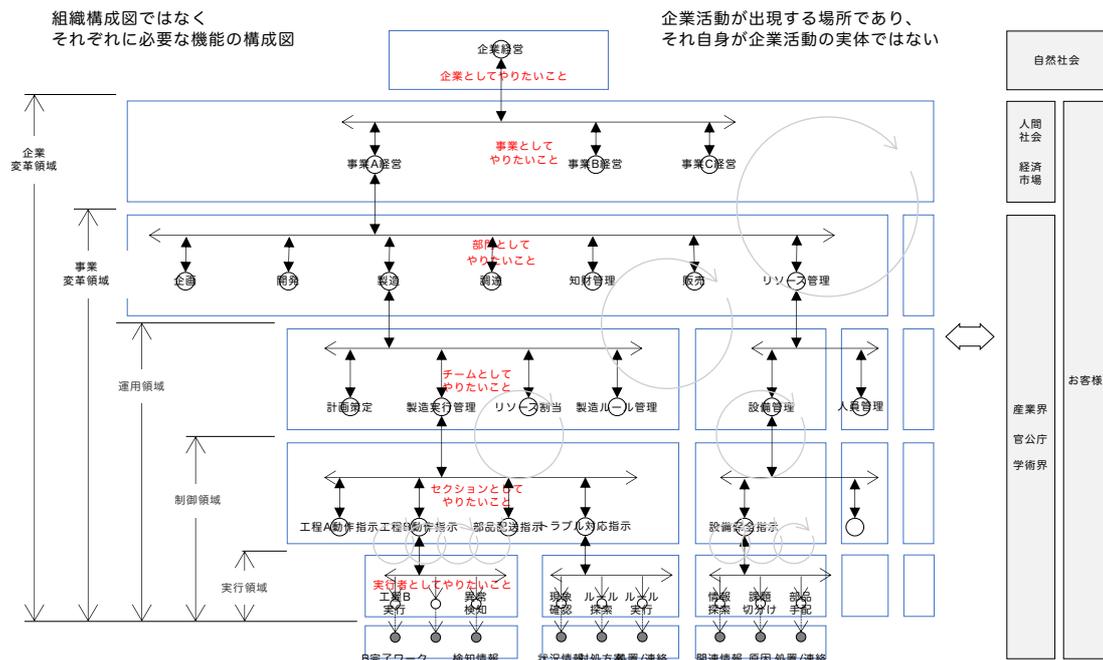
## “やりたいこと”の噛み砕きと目的の繋がりを形成

プロジェクト各論の入り口は、企業理念（企業としてやりたいこと）を出発点に、それぞれの領域ごとの“やりたいこと”へと噛み砕き、目的の繋がりを形成することです。これは、どこか他人事に思えてしまう企業理念を、身近な「自分ごと」まで繋ぐ作業に相当します。



## “やるべきこと”の繋がりを形成

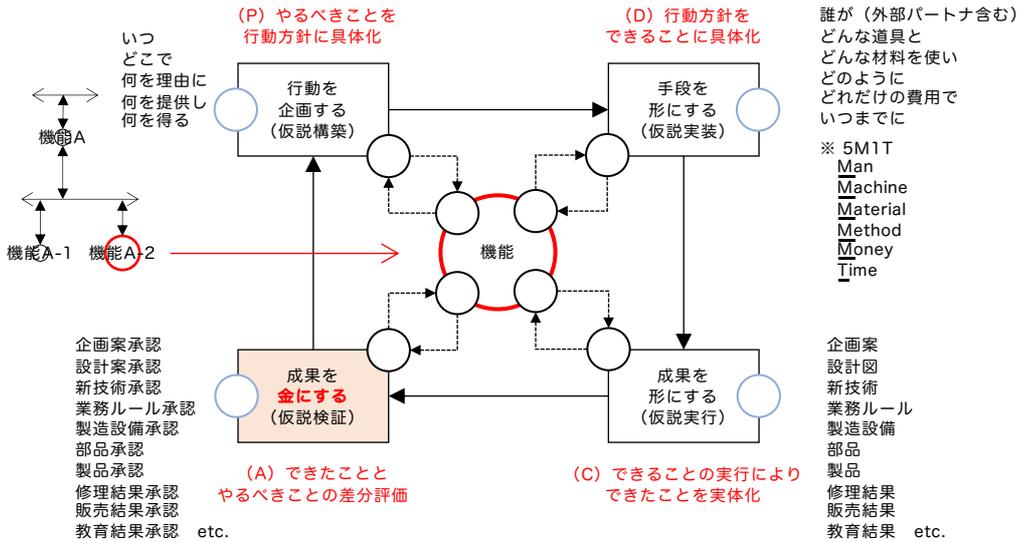
やりたいことの実現に必要な“やるべきこと”を「機能の繋がり」として描きます。必ずしも常時すべての機能が活動するわけではありませんから、企業活動が現れたり消えたりする場所を示していると捉えると分かり易いと思います。



## “やるべきこと” 機能を実行要素に分解

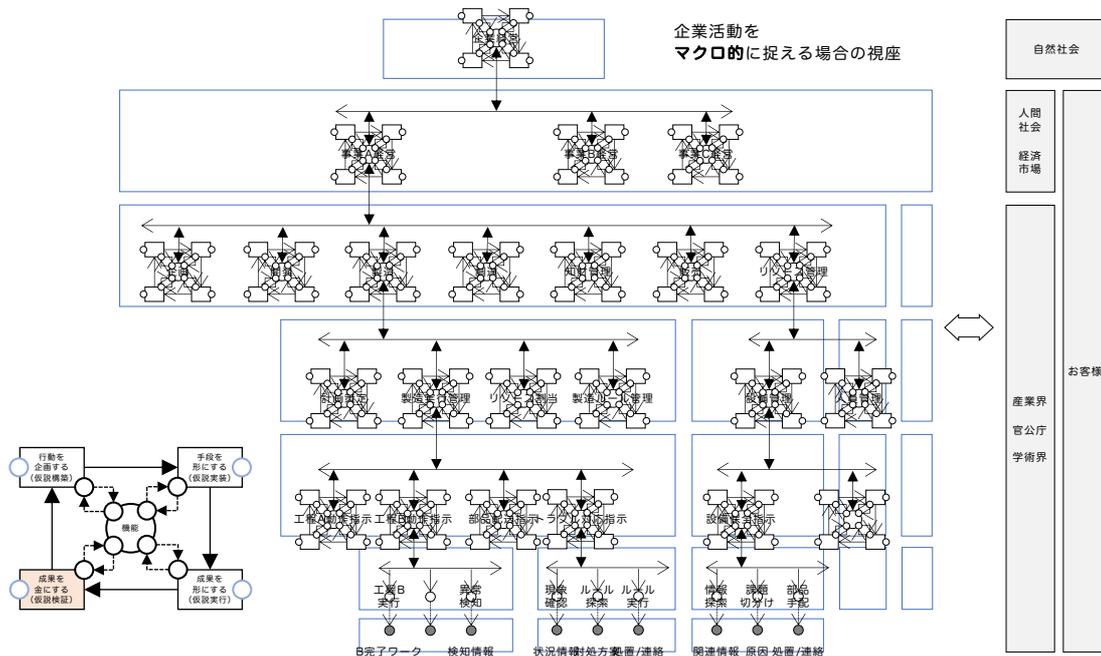
機能の実行は企業活動そのものですから、企業活動の三要素、企画する・形にする・金にするに分解することができます。形にするはさらに「手段を形にする」と「成果を形にする」に細分化されPDCAループとして表現されます。

尚、PDCAの“D”は準備を整えることです。チームを作るとか製造ラインを準備する...などをイメージされると良いと思います。準備したチームや製造ラインを使い、できる筈...という仮説に基づき実行するのが“C”です。



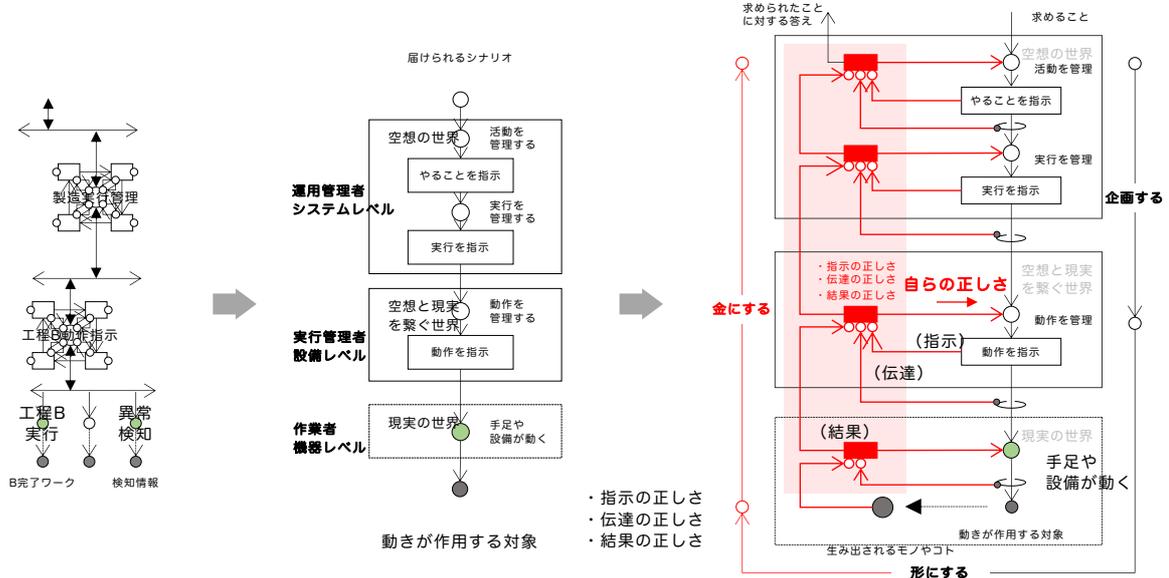
## 企業活動が繰り広げられる舞台を形成

機能の実行要素を重ねることで、それぞれの領域で、やりたいことを実現するために、どのような企業活動が、どこで、現れたり消えたりしているかをマクロ的に捉える場合の視座を形成することができます。



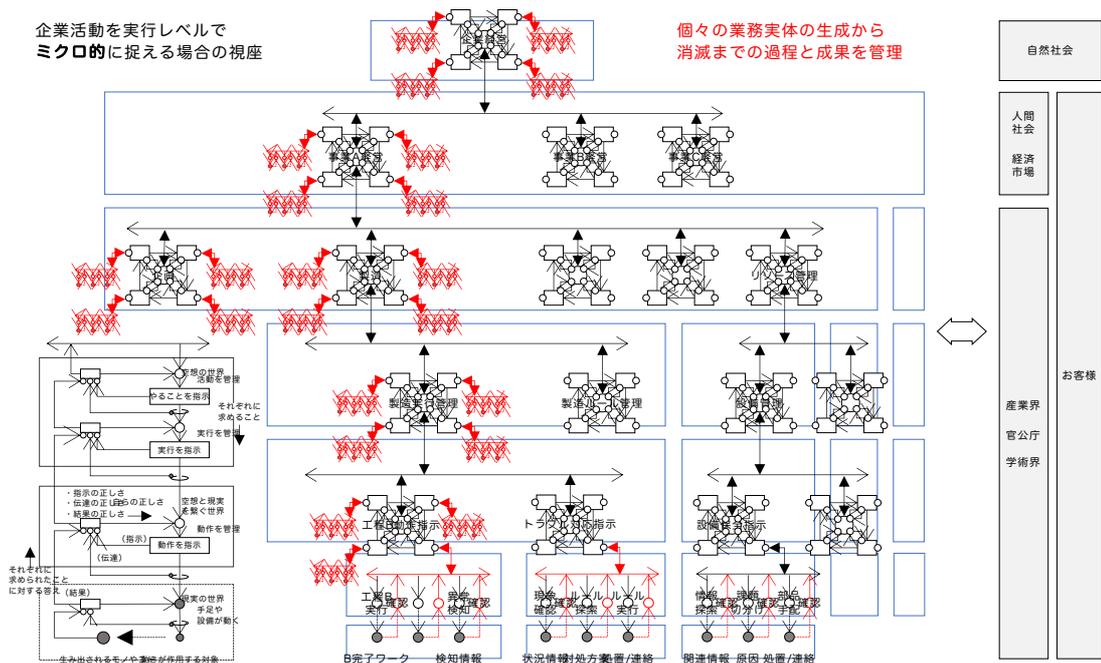
## 企業活動の実体を構成する要素

バラツキに支配される現実世界で実行される企業活動の実体は「指示の正しさ・伝達の正しさ・実行の正しさ」の観点から、内と外における事実の繋がりを管理する要素を加えて捉える必要があります。



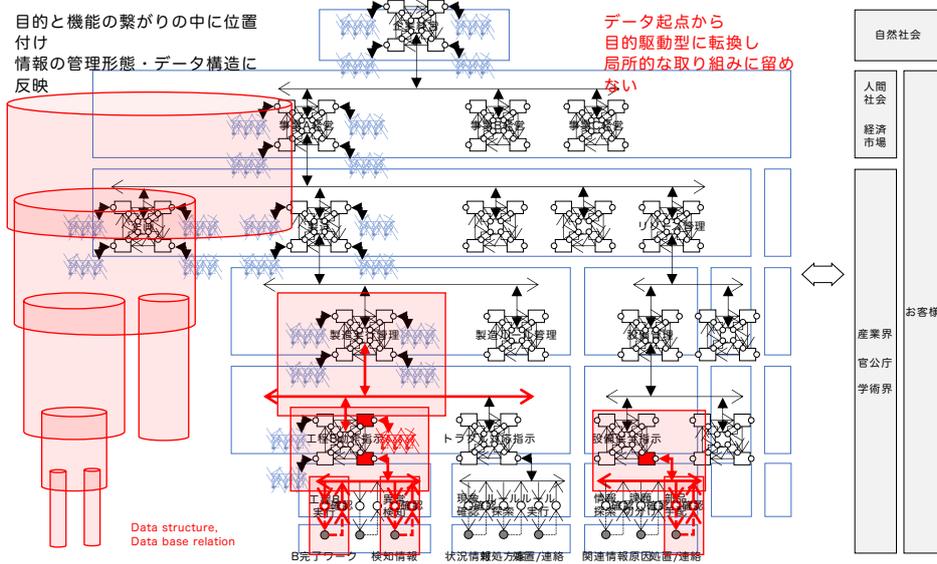
## 全ての業務活動における活動実体を詳細化

それぞれの機能の実行要素に、活動の実体を構成する要素を作用させることで、業務活動の実体が、どこで、どのような経緯で生成され、どのような正しさの繋がりの中で活動し、何を残し、どのように消え去ったかをミクロのレベルで捉える視座を形成することができます。

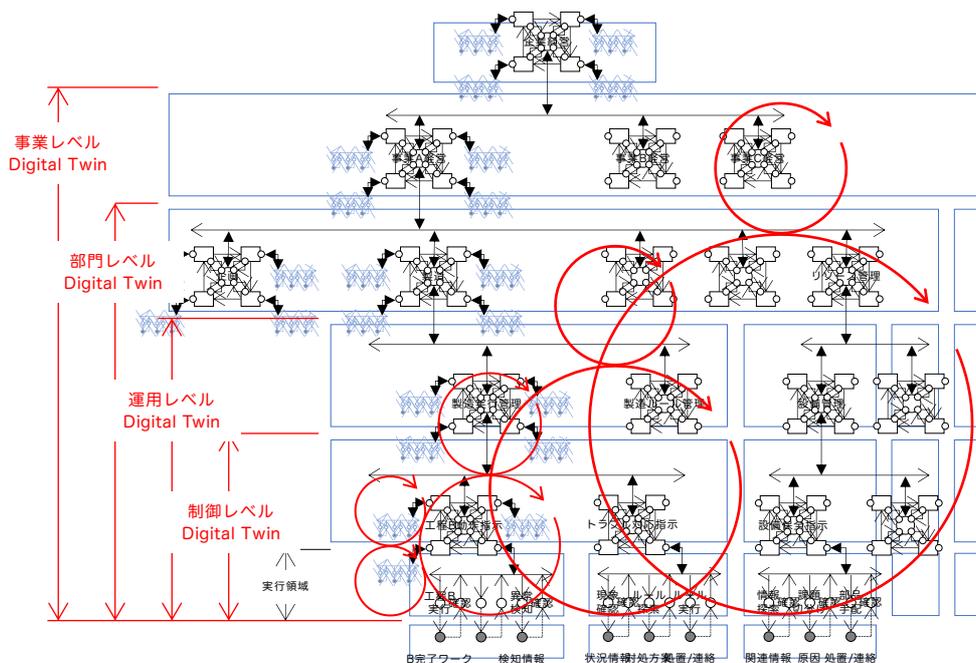


## 目的駆動型の業務活動管理への転換

企業活動をマクロ的に捉える視座を情報の管理形態に、ミクロ的な視座をデータ構造に反映することで、企業活動を目的と機能の繋がりの中に位置付け、個々の取り組みの孤立を排除するとともに、データ収集を起点とする管理から、ある目的に対して、動的に現れたり消えたりする企業活動の実体を起点とする「目的駆動型の業務活動管理」への転換をご支援します。



目的駆動型への転換は、事業レベルでの Digital Twin に向けたアプローチとして、デジタルを活用した「企業の持続的成長を加速する取り組み」に繋がるものと考えています。



視点と向き合い方を変えることで、既存の取り組みやイノベーションの種を無駄にしないための受け皿を用意することをご提案させていただきます。どうぞお気軽にお声がけ下さい。

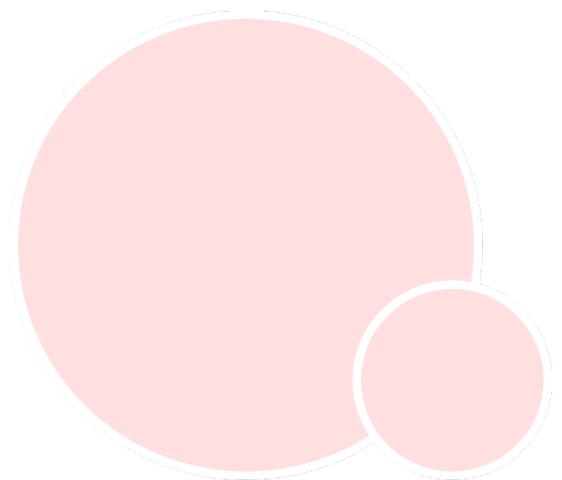
すべてはワクワクが溢れる社会のために

 **R&Next Design Inc.**

アール・アンド・ネクストデザイン株式会社

〒530-0004  
大阪市北区堂島浜 1-4-4  
アクア堂島フォントナーナ 3F

HP : <https://www.r-nextdesign.com/>  
Mail : [contact-rnd@r-nextdesign.com](mailto:contact-rnd@r-nextdesign.com)



July 2021